

## 一宮西港道路の早期実現に関する要望について

本県は、日本一の産業集積を誇る産業圏域として、日本経済を支える中心的な存在です。

自動車関連産業を始めとした産業集積により、今や世界経済の中で大変重要な一角を占めています。なかでも、名古屋港は、総取扱貨物量は約1億9千万トンと平成14年以降全国第1位、貿易黒字額も約6兆円と平成10年以降全国第1位であります。

現在、飛島ふ頭東側コンテナターミナルの整備など、国際物流拠点としての整備が着々と進められております。

今後とも本県が日本の産業・経済を強力にリードしていくためには、空港・港湾等の物流拠点と生産拠点や産業集積地間の定時性を確保するなど、さらなる輸送コストの低減を可能とする物流ネットワークの構築が必要であります。

こうしたなか、尾張西部地域を南北に縦断する西尾張中央道は、名古屋港へアクセスすることから、貨物輸送の需要が高く、朝晩を中心に渋滞が発生している状況であります。

現在、愛知県において東海北陸自動車道の一宮ジャンクション部分において（仮称）西尾張インターチェンジの整備を進めており、東海北陸自動車道の利便性向上に大きく貢献するものと考えておりますが、抜本的な西尾張中央道の渋滞解消とともに、地域相互の交流促進や地域社会の発展・開発のためには、東海北陸自動車道の南伸部分となる地域高規格道路一宮西港道路の整備は必要不可欠であります。

また、日本の大動脈である名神高速道路と新名神高速道路

を結び、広域道路ネットワークを形成するとともに、東海北陸自動車道と接続し、航空宇宙産業が集積する岐阜方面から名古屋港や中部国際空港へのアクセス道路として重要な道路であります。

さらに、当地域には、我が国最大の海拔ゼロメートル地帯があり、南海トラフ地震等による大規模災害時には河川海岸堤防の崩壊・沈下を原因とする浸水被害が危惧されており、一宮西港道路は、災害時の避難経路や救援活動としての役割が期待される「命の道」でもあります。

一宮西港道路は災害時の避難経路や救助活動の主軸となるという観点からも、下記について格段のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 一宮西港道路の早期実現を図ること。
2. 地域が真に必要なとする道路整備が着実に実施できるよう、平成30年度道路関係予算は所要額を確保すること。
3. 「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の補助率等の嵩上げ措置については平成30年度以降も継続・拡充すること。

平成29年7月

東海北陸自動車道南伸建設促進期成同盟会

会長 愛知県知事 大村 秀章

名古屋商工会議所会頭 山本 亜土

一般社団法人中部経済連合会会長 豊田 鐵郎